

アラハダカ (ハダカイワシ科) が和歌山県白浜町に所在する 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”と市原海岸へ漂着

久保田 信¹・新稲一仁²・東海林 明³・武藤望生³・中坊徹次⁴

Myctophum asperum (Myctophidae) that casted ashore at“Kitahama beach”of
the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University and Ichihara beach
at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota¹・Kazuhito Niiina²・Akira Tokairin³・Nozomu Muto³ and Tetsuji Nakabo⁴

1. 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459)
2. 〒649-2334 和歌山県白浜町才野1622-2222
3. 京都市京都大学大学院農学研究科 (〒606-8502 京都市左京区北白川追分町)
4. 京都大学総合博物館 (〒606-8501 京都市左京区吉田本町)

はじめに

全世界の外洋の水深200m以深が主な生息域であるハダカイワシ類の中で、アラハダカ *Myctophum asperum* が、和歌山県白浜町に所在の京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ2010年5月4日と2011年4月27日に漂着した(久保田ほか, 2011)。2012年も5月に“北浜”にアラハダカが漂着した。これらの北浜記録に加え、1996年5月にも和歌山県白浜町市原海岸に本種が漂着していたことが判明したので、あわせて報告する。

初回の採集は当時京都大学1回生の平澤康太君によるもので、臨海実習時である。“北浜”への本種の漂着は今年で連続3回となり、いずれも同時期である。

結果と考察

白浜町の海岸に、2012年に漂着した個体と1996年に打ち上がった個体は以下の通りである。

FAKU 99729 (京都大学総合博物館保管) :

2012年5月11日、白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の“北浜”に漂着 標準体長 74.7

mmの成魚、久保田 信採集(図1)。



図1. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ2012年5月11日に漂着したアラハダカ(FAKU 99729)

FAKU 99730 (京都大学総合博物館保管) :

1996年5月4日正午頃、白浜町市原海岸へ漂着、標準体長 77.4 mmの成魚1個体、新稲一仁採集(図2)。



図2. 和歌山県白浜町市原海岸へ1996年5月4日に漂着したアラハダカ(FAKU 99730)

4月下旬から5月中旬にかけて、和歌山県白浜町の海岸にアラハダカが漂着しているのは、この時期のなんらかの海洋条件に起因していると考えられる。本種は日本列島では太平洋沖の少し北よりに分布しているが（中坊、2000）、紀伊水道沖の水塊の季節的な動きとも考え合わせて、白浜への漂着の要因を考えるべきである。

引用文献

久保田 信・武藤望生・東海林 明・中坊徹次.
2011. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカ

イワシ科) の和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”への漂着. 南紀生物, 53(2): 123.

中坊徹次. 2000. ハダカイワシ科. pp.378-399, 1490-1491. In 中坊徹次編. 日本産魚類検索, 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会、東京.